

主題: 幼児教育・生活科における子ども相互の学びをつなぐ支援の在り方  
ーオノマトペ, メタファなどの言葉から学びの姿をとらえてー

第2学年 生活科学習指導案

1. 単元 「ワクワクドキドキたんぼたんけん」

2. 指導観

【こんな子どもだから】

- 子どもたちは、1年生「とびだせあそびたい」の学習に於いて、季節ごとに校区の公園で草花や虫さがしをするなど自然にふれ合う経験を繰り返し楽しんでいる。また、動植物に関心を向けている子どもが多く、休み時間に見つけた虫を教室で飼ったり、タンポポをつんではくわしく観察をしたりしている。放課後には、家の近くや近くの公園で遊ぶことが多いが、家から遠く離れた友達の家遊びに行く機会は少なく行動範囲が限られており、校区のもつ様々なよさに気づいたり進んで関わったりするまでにはいたっていない。
- ある事象に対して、音や形、色やにおいといった五感をフルに活用し意欲をもって取り組むことはできる。また、「この前はなかったのに、今日は〇〇があったよ。」といった気づきができる子どもも多い。しかし、気づきを的確に表現できる子どもは少なく、友達との交流を通してさらに高めるなどの場の設定が必要である。

【こんな教材で】

- 自分たちの住んでいる町を探検し、これまで気づかなかった地域の様子に気付くことができる。
- めあてをもって繰り返し活動することで、前とはちがう様子に気付いたり、新しい発見をしたりして、地域のよさに気付くことができる。
- 共通体験をすることで学びの共有がされやすく、これまでの経験を生かして表現したり、人に伝えたりすることができやすい教材である。

【こんな子どもに】

- 子どもたちが校区にある様々な場所や自然を探検し、感動や発見をもったり、自然とのつきあい方を知ったりして、身近な自然に親しむ子ども
- 五感を通して探検の楽しさを知り、活動を通しての気づきを自分なりの方法で表現したり、周りの人に伝えたりすることができる子ども
- 探検活動を通して、自分たちの生活は地域と密接に関わっていることに気づき、地域の人々と積極的にふれ合い、つながりを深めていける子ども

【こんな方法で】

① オノマトペ、メタファから学びの姿をとらえる方法

- これまでの学習で子どもが発したオノマトペ、メタファなどの言葉を整理し、掲示物として常掲することで、豊かな表現をどんな時でも安心して発することができるようにしておく。
- 子どものつぶやきやカードに書かれた言葉をていねいに拾う。そして、学びがつながるような言葉かけを行う。例えば「そうだね。本当だね。」と認めたり、「よく見つけたね。おもしろい言い方だね。」と賞賛したり、「◇◇くんはほかの言い方をしてたよ。」とつなぎたい子どもへの方向付けをしたりする。

② 課題が連続し、豊かな表現が生まれる活動づくり

- これまでの経験や放課後の遊び方、地域行事への参加の有無についてアンケートをとり、実態の把握をする。このことからわかったことをもとに学習の計画をたてる。
- 1年生の時に探検した公園やその通り道を出発点とし、再度みんなで探検した後、前に来たときと比べて同じところや違うところを出し合う。「ツバメの巣があったよ。」「田んぼに空き缶が捨ててあった。」「前に行ったときはなかったけど、くるくるすべり台があったよ。」「カモが川をスイスイおよいでいたよ。」「バスの運転手さんがぼくたちを先にわたらせてくれたよ。」などの気づきをたくさん出し合い、様々な視点から地域を見ることができるようになる。また、これらの気づきを校区地図に付箋で書きこみ掲示することで、いつでも気づきの交流がもてるようにする。
- 子どもが探検したい場所やめあてを教師が前もって把握し、活動を予想しながら見守る。活動中に表現された言葉を賞賛したり、同じめあてをもった子どもとの学び合いができるように環境構成を工夫したりする。

③ (②をさらに充実させるために)対話を生み出すグループ構成のあり方

- 本時のめあてを具体的にもたせ、同質グループによる学び合いが生まれやすいような場の工夫をする。

3. 単元の目標

- 町たんけんを通して、地域の自然や人と積極的に関わり、その様子や喜びを自分なりの表現で友達や周りの人に伝えるとともに、地域の人々へ適切な行動をとろうとすることができる。

4. 指導計画(全17時間)

段階	学習活動と内容	教師の支援	期待できる姿・表現
であう4	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の知っている町のひみつや自慢をみんなに紹介する。</li> <li>1年生の時に出かけた公園にみんなで探検に行く。</li> <li>気づいたことを付箋に書き、校区地図に掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に探検活動についてのアンケートを準備し、探検活動における実態調査を行う。</li> <li>1年生の時の探検活動と比べて発見が広がっていることに気付くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中公園には、くねくねすべり台が新しくできたよ。</li> </ul> <p>【行動・発言・記録分析】</p>

<p>さ ぐ る 1 0</p>	<p>○ 田植え前の田んぼに出かける。 ・探検したいことを決め計画を立てる。 ・自然や人とかかわる。 ・探検したことを絵や文で表現する。</p> <p>○ 田植え2週間後の田んぼに出かける。 ・1回目の探検で不思議に思ったことやもっと調べたいことをもとにめあてをつくる。 ・レインコートづくりをする。 ・自然や人とかかわる。(本時1) ・探検したことを絵や文で表現する。</p> <p>○ 稲刈り前の田んぼに出かける。 ・さらに調べたいことをもとにめあてをつくる。 ・自然や人とかかわる。(本時2) ・探検したことを絵や文で表現する。</p>	<p>○ 共通体験の中から発見や感動が生まれるよう、クラス単位での探検の計画を立てる。</p> <p>○ 国語「今週のニュース」「かんさつ名人になろう」との関連。</p> <p>○ オノマトペ、メタファなどの言葉で表現できるよう常掲の表「2年1組キラキラことば」を活用する。</p> <p>○ めあて(課題)を明確にもって、出かけるようにしておく。</p>	<p>・田んぼのブクブクは何だろう?何か生きものがあるのかなあ。 【行動・発言・記録分析】</p> <p>・田んぼにはいろんな生きものがあるんだね。生きものたちは田んぼにいいことをしている。 【行動・発言・記録分析】</p> <p>・いねが大きくなっているね。風でユラユラしているよ。 【行動・発言・記録分析】</p> <p>・今年もお米がたくさんできてよかったね。稲刈りをしてみたいなあ。 【行動・発言・記録分析】</p>
<p>ふ か め る 3</p>	<p>○ 活動を振り返り、地域のよさや自分の成長に気付く。</p> <p>○ 「田んぼからのメッセージ」を書く。</p>	<p>○ これまでの探検のふりかえりができるように、発見カードをもとに気付きの交流ができるようにする。</p> <p>○ 田んぼの生きものやイネになりきって、学んだことや今後の生活に生かすことができるような内容になるようにする。</p>	<p>・たんけんに行ってワクワクドキドキ楽しかった。 【発言・記録分析】</p> <p>・ハウネンエビになってメッセージを書こう。 【発言・記録分析】</p>

## 5. 本時(本時1)

平成18年7月5日(水) 5校時

5年観察田にて (小雨決行)

## 6. 本時の目標

たんけんしたい田んぼについて、気付いたことを友達に知らせたり GT に尋ねたりして、田んぼに関わっている方々の思いに気付こうとすることができる。

## 7. 本時指導の考え方

子どもたちはこれまでの探検活動で、目的地に行く途中に出くわす田んぼの小さい変化(田んぼの土からブクブクとあわみみたいなものが出てきたよ。)や前と違う様子(この前は水が入っていなかったのに今日見たら入っていた。)に気づき、探検したいという気持ちをふくらませて

いる。また、探検中に5年生の田植え見学をし、「ぼくたちも田植えをしてみたい。」「どんな生きものがあるのかな。」などの様々な願いをもっている。

本時では、前もってもたせておいた探検のめあてをもとに同質グループをつくり、探検での感動や発見が交流しやすいように環境構成を工夫する。また、教師も感動や発見を子どもと共有しやすくするために、子どもが発するオノマトペ、メタファなどの言葉を豊富に使うよう心がける。さらに、学びがつながるようにするための手立てとしてGTに田んぼへの思いを話していただき大切な生活の場所であることに気付かせたい。また、教師は子どものつぶやきに対して「すごいね。よく発見したね。」といった賞賛、「言い換えるとどんな言葉になる?」といった問い返し、「○○くんは、そのことを『◇◇みたい。』と言っていたよ。」といったきり返し(ゆさぶり)、「ちょっとやってみて」といった動作化などをしていくなかで子ども相互の学びをつないでいけるよう支援をしていきたい。

## 8. 準備

【子ども】 畦を歩く時に必要なもの(体操服、よごれてもいいくつやサンダル、タオル)、手作りレインコート、虫取り網・虫かご(必要に応じて)

【教師】 ICレコーダー、小さいビニール、GTの名札

## 9. 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 ※ 評価
<p>1. 本時めあてを確認する。</p> <p>めあて <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「わくわく田んぼたんけんたい」になって、どんどんはっ見しよう。</span></p>	<p>○ 事前にたんけんをするときの注意をしておく。</p>
<p>2. グループごとに田んぼの中の様子をみたりGTの話の聞いたりする。</p> <p>グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ オタマジャクシたんけんたい</li> <li>○ ミニオタマたんけんたい</li> <li>○ 生きものをつかまえたい</li> <li>○ ピクピクタニシたんけんたい</li> <li>○ ワクワク生きものたんけんたい</li> <li>○ ドキドキ田うえたんけんたい</li> <li>○ 田んぼベチャベチャ歩きたんけんたい</li> </ul> <p>3. 発見や感動を伝えながら活動を繰り返す。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>オタマジャクシがスイスイ泳いでる。こんなふうに。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin-right: 20px;"> <p>こっちにもいたよ。</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	<p>○ めあてを事前に把握し、同質グループをつくっておく。</p> <p>○ 発見したことやGTの話と同じグループのみんなに伝えるように約束をする。</p> <p>○ 必要なものを予め準備しておく。</p> <p>※ 自分の発見を友達に知らせたり、友達の発見を聞くことができる。</p>



あと2週間くらいでカエルになるよ。そしてたら田んぼからピョンピョン出てくるよ。



カブトエビがいたよ。オタマジャクシより小さいな。1ぴきもらってもいいですか？

カブトエビは2週間くらいの命なんだ。その間「田んぼの草とり」をしてくれるんだよ。田んぼにとって大事な生きものなんだ。



そうか。じゃあ、にがしてあげよう。みんなにも教えよう。



田植えの時の苗が少しあるんだけど、いねを育ててみるかい？

もらえるの？やった！  
でも、どうやって育てるのかなあ。



学校にあるバケツでもいねを育てることができるんだよ。



じゃあ、5年生に教えてもらいながらやってみるね。

4. 今日の学習を振り返る。

- 教師もオノマトペ、メタファなどの言葉を意識して使い、学びの共有ができるようにする。

※ 今日の学習を振り返り、田んぼの生きものやイネの生長に目を向け、田んぼへの思いを寄せて活動したいという意欲をもつことができる。

## 5. 本時(本時2)

平成18年10月11日(水) 5校時

5年観察田にて (小雨決行)

## 6. 本時の目標

田んぼでたんけんしたいことについて、知りたいことを尋ねたり、気付いたことを自分なりに表現したりして、自分の気付きにつなげ次の活動に生かしていこうとすることができる。

## 7. 本時指導の考え方

子どもたちは、これまでの2回の田んぼたんけんでは、田んぼの稲や土の変化や生きものの様子に気付き、今はどうなっているのかといったもっと探検したいという気持ちをふくらませている。また、学校でのバケツ稲の生長や別の田んぼでの機械による稲刈りを見学し、観察田との違いに気付いたり疑問をもったりしている。

本時では、前もってもたせておいた探検のめあてをもとに同質グループをつくり、探検での感動や発見が交流しやすいように環境構成を工夫する。また、教師も感動や発見を子どもと共有しやすくするために、子どもが発するオノマトペ、メタファなどの言葉を豊富に使うよう心がける。さらに、学びがつながるようにするための手立てとして、それぞれのめあてを全員に知らせ、自分の発見を友達に知らせることができるようにする。また、子どものつぶやきに対して「すごいね。よく見たね。〇〇くんも言っていたよ。」「言い換えるとどんな言葉になる?□□さんは△△と言っていたよ。」「どんな感じ?ちょっとやってみて。」といった意味付け・価値付け・方向付けをしていくなかで支援をしていきたい。

## 8. 準備

【子ども】たんけんバッグ、たんけんカード

【教師】ICレコーダー、ビデオカメラ、GTの名札

## 9. 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 ※ 評価
1. 本時めあてを確認する。	○ 事前にたんけんをするときの注意しておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">             めあて              「わくわく田んぼたんけんたい」になって、どんどんはっ見しよう。           </div>	
2. グループごとに田んぼの中の様子をみたり GT の話を聞いたりする。  グループ ○ 田んぼもつとたんけんたい ○ 生きものたんけんたい ○ 土のことたんけんたい ○ ドキドキ田んぼたんけんたい ○ 田んぼベチャベチャ歩きたんけんたい  3. 発見や感動を伝えながら活動を繰り返す。	○ めあてを事前に把握し、同質グループをつくっておく。友達のためにも知らせておく。  ○ 発見したことや GT の話を友達に伝えるように約束をする。



夏は土がベチャベチャしていたのに今はカラカラ。どうして水が入っていないの？



もうすぐ稲刈りだから、そのころになるともう、水を落とすんだよ。



じゃあ、前いたオタマジャクシやカブトエビは、今はどうしているの？

オタマジャクシはカエルになって田んぼをピョンピョンとんでるよ。  
カブトエビはね、たまごをうみつめているんだよ。また来年姿を見せてくれるよ。



この前見せてもらった稲刈りはきかいでやっていたけど、まだ稲刈りはしないの？



稲刈りはたくさんの人手がいるんだよ。協力してやっているんだよ。準備やお天気も大事なんだよ。来週5年生が稲刈りをするから、見においで。

やったあ！5年生はどうやって稲刈りをするのかなあ。ぜったい見に行きたい！  
ぼくも稲刈りをしてみたいなあ。



4. 今日の学習を振り返る。

※ 自分の発見を友達に知らせたり、友達の発見を聞くことができる。

○ 教師もオノマトペ、メタファなどの言葉を意識して使い、学びの共有ができるようにする。

※ 今日の学習を振り返り、活動が続けていきたいという意欲をもつことができる。